

第7回 発達支援教育実践セミナー



支援を必要とする子どもたちの持つ 「主体的な力」を生かした支援と教育

～子どもたちの育ちと学びを支える「内側」からの理解と実践～

今回で7回目となる発達支援教育実践セミナーでは『支援を必要とする子どもたちの持つ「主体的な力」を生かした支援と教育～子どもたちの育ちと学びを支える「内側」からの理解と実践』と題して、1部では2年目を迎える八重山地域の当センターの特別研究員による「トータル支援教室 in 八重山」の活動の様子とその実践からの学びについて紹介します。また、国頭地域で子どもたちとの交流活動としての日帰りキャンプ「トータル支援 in 国頭」を通して海・自然環境のなかの子どもたちの姿を報告します。2部ではスタートから6年が経過した当センターの支援の必要な子どもたちを対象とした「トータル支援教室」の実践を振り返り、『子どもたちの「主体的な力」を発揮できる関わりや取り組みを考える』のテーマで成果報告します。

また、1部では『障がいのある子どもたちの「発達」を捉える視点』と題して、奈良女子大学の麻生武氏(発達心理学)、2部では『発達障害のある子どもたちの内面世界の理解と支援』と題して岐阜大学の別府哲氏(発達心理学)による講演、およびセンター特別研究員を交えた質疑応答、討論を行います。

日にち

平成24年 11月 24日(土)

参加無料
申込不要

時間

10時30分～17時(10時受付開始)

場所

琉球大学医学部 臨床講義棟2階 大講義室

講師

麻生 武(奈良女子大学 教授)

プロフィール 1949年生まれ。専門は発達心理学。乳幼児の発達、幼児の遊びや想像力についての研究を深めてきた。自閉症児の発達をサポートする活動も行う。奈良女子大学文学部附属幼稚園園長の経験を持つ。主な著書：『身ぶりからことばへ』(新曜社 1992) 『「見る」と「書く」との出会いーフィールド観察学入門』(新曜社 2009)

別府 哲(岐阜大学 教授)

プロフィール 1960年生まれ。自閉症幼児の愛着と自他理解の発達と障害、学齢期の高機能自閉症児の自尊心を高めるための理解と支援の研究を深めている。また地域での発達相談や父母とともに作業所作りに携わる経験を持つ。主な著書：『障害児の内面世界をさぐる』(全障研出版部 1997) 『発達障害のある子どもの自己を育てる』(ナカニシヤ出版 2007)

《 日程 》

・10時30分～11時30分

挨拶

はじめに

金城昇 (センター長)

浦崎武 (司会 センター専任)

第1部：支援の必要な子どもたちの理解と

支援を考えるための地域の取り組み

・『八重山地域の支援の必要な子どもたちへのトータル支援教室と

実践からの学び (トータル支援教室 in 八重山)』

入嵩西清幸 (八重山教育事務所 指導主事)

運道恵理子 (石垣市立登野城小学校教諭・センター特別研究員) ほか

・『国頭地域の支援の必要な子どもたちとの交流活動としての日帰りキャンプ

一海・自然環境を生かした子どもたちとの関わり (トータル支援教室 in 国頭)』

大城麻紀子 (沖縄県立森川特別支援学校教諭・センター特別研究員)

金城明美 (名護市立久辺小学校教頭・センター特別研究員) ほか

コメント

麻生武 (奈良女子大学)

・11時30分～12時30分 麻生 武 (奈良女子大学 教授)

『障がいのある子どもたちの「発達」を捉える視点』 (仮題)

・13時30分～15時20分

第2部：支援の必要な子どもたちのもつ「主体的な力」を

発揮できる関わりや取り組みを考える

・『トータル支援教室の今まで：6年間』

崎濱朋子 (沖縄市立比屋根小学校教頭・センター特別研究員) ほか

・『支援の必要な子どもたちをどのように理解し、関わるか

～トータル支援教室のなかの子どもたちの内側からの理解と「主体的な力」の育ち』

実践事例報告

センター特別研究員

支援企画報告

武田喜乃恵 (センター相談員・特別研究員)

母親からの報告

支援教室に参加する子どもの母親

コメント

麻生武 (奈良女子大学)・別府哲 (岐阜大学)

・『発達障がいのある子どもたちの学校生活のなかで「主体的な力」をどのように引き出すか

～トータル支援教室から学校への還元～』

瀬底正栄 (那覇市立小禄小学校教諭・センター特別研究員) ほか

コメント

麻生武 (奈良女子大学)・別府哲 (岐阜大学)

休憩

・15時30分～17時 別府 哲 (岐阜大学 教授)

『発達障がいのある子どもたちの内面世界の理解と支援』 (仮題)

*プログラムの内容は若干変更がある可能性があります、ご了承ください。